

水と共生に



グローバルウォータ・ジャパン代表 国連環境アドバイザー
吉村 和就

1972年荏原インフィルコ入社。荏原製作所本社経営企画部長、国連ニューヨーク本部の環境審議官などを経て、2005年グローバルウォータ・ジャパン設立。現在、国連テクニカルアドバイザー、水の安全保障戦略機構・技術普及委員長、経済産業省「水ビジネス国際展開研究会」委員、自民党「水戦略特命委員会」顧問などを務める。著書に『水ビジネス 110兆円水市場の攻防』（角川書店）、『日本人が知らない巨大市場 水ビジネスに挑む』（技術評論社）、『水に流せない水の話』（角川文庫）など。

最終回に寄せて…連載8年間の軌跡 水資源問題、水ビジネス、水道事業と真摯に向き合う

本連載「水と共生に」は今回で最終回となる。2012年4月号から始まり、8年間、計97編の原稿を掲載してきた。長年にわたり拝読いただき、深く感謝したい。近年、情報化の波はますます加速し、世の中のほとんどの情報は新聞、雑誌、インターネット上で集めることができる。一方で、これらの情報の真偽や価値、背景を見極める目がより求められるようになってきている。最後にこの8年を振り返ってみたい。

本連載1回目（12年4月号）のタイトルは「21世紀は水の時代」だった。水資源は、その国の経済活動や国民生活を大きく左右する要素の1つで、実際、水資源をめぐる国家間の紛争も起きている。

この第1回連載から3年8カ月後の15年12月には、COP21（国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議）が開催され、パリ協定が採択された。その3カ月前の同年9月には、持続可能な開発目標（SDGs）が採択されている。地球温暖化は水資源に大きな影響を与える。また、SDGsには17のターゲット（目標）が設定されており、その中の1つ、ターゲット6は「安全な水とトイレを世界中

に」とうたっている。

これらはまさに21世紀は水の時代を象徴するものである。

世界各国の水事情に焦点

本連載では、意外と知られていない世界各国の水事情にも焦点をあて、紹介してきた。

北米の米国、カナダを手始めに、中南米のブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、ペルー、コロンビア、ベネズエラ、エクアドル、パナマの詳細な水事情やその背景を分かりやすく解説した。このほか、サウジアラビア、イラン、ベトナム、台湾、インドも取り上げ、その数は合計15カ国に上った。

このほか、米カリフォルニア州の水災害やフロリダ州を襲った過去最悪の赤潮被害、ミシガン州フリント市の水道水鉛汚染、フィリピン・ボラカイ島の下水問題など、地域固有の水にまつわる問題を詳細なデータをもとに紹介した。

多くの国の生情報を発信

筆者は本連載の執筆に当たり、国連本部（米ニューヨーク）勤務の経験を活かし、多くの国を実際に訪問し、現地の企業や研究者、地元住民と直接触れ合うことによって正確な情報を入手し、原稿に反映してきた

つもりである。

これまでの8年を振り返ると、米国、韓国、フランス、シンガポール、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、北朝鮮、インド、イラン、サウジ、ベルギー、オランダ、中国、台湾、ポルトガル、ドバイなどで開催された国際会議や展示会に筆者は参加している。その際、各国の政府要人と直接対話して生の情報を収集するとともに、日本の水処理技術を各国政府にPRしてきた。

17年1月号では、イランのエネルギー大臣の単独インタビューに成功し、誌面に大々的に展開したのもいい思い出である。くしくも、その翌月の17年2月号では「トランプ新政権が誕生」とのタイトルの原稿を掲載した。

トランプ政権は翌18年5月、イラン核合意から離脱。昨年末には、親イラン組織による米軍基地攻撃や在イラク米国大使館の襲撃などがあり、両国の緊張は高まった。今年1月2日には、米国がイラン革命防衛隊のソレイマニ司令官を殺害。対するイランは同月8日、報復としてイラクの米軍基地2カ所に巡航ミサイルとドローンによる攻撃を行い、緊張はさらに高まった。

また、本連載では、各国の水ビジネスの状況を紹介するとともに、日

表 連載「水と共生に」(2012年4月号～20年4月号)の各号タイトル

2012年4月号	21世紀は水の時代	2月号	南米エクアドル共和国の“水事情”	12月号	“日本一の清流”に淀川と大渡ダム
5月号	「第6回世界水フォーラム」がフランスで開催	3月号	ベトナムの“水事情”	2018年1月号	ベトナムの水事情と水ビジネス
6月号	外資が狙う日本の水資源	4月号	中南米パナマ共和国の“水事情”	2月号	アジア・太平洋水サミット、ミャンマーで開催
7月号	日本の水道をどう守るのか	5月号	国連防災世界会議を仙台市で開催	3月号	SDGsと水問題
8月号	空前の盛り上がり見せたSIWW2012	6月号	「世界水フォーラム」アラカルト	4月号	世界で水道事業の再公営化が加速
9月号	水とエネルギーと食料問題	7月号	国連「世界水発展報告書2015」	5月号	「世界水フォーラム」をブラジルで開催
10月号	下水はエネルギーと資源の宝庫だ！	8月号	ドイツでアヘム国際見本市・国際会議開催	6月号	フィリピン・ボラカイ島、下水問題で半年間閉鎖
11月号	国を挙げて水ビジネスに取り組む韓国	9月号	水循環基本法成立と今後の課題	7月号	台湾で愛される日本の土木技師・八田與一
12月号	日本の水技術を世界に（上）	10月号	世界の海水淡水化市場の現状	8月号	インドの水ビジネス事情
2013年1月号	日本の水技術を世界に（下）	11月号	欧州「水枠組み指令」の動向	9月号	「シンガポール国際水週間」見聞録
2月号	日本水道のゆくえ	12月号	北朝鮮の知られざる電力&水道事情	10月号	夏の甲子園、金足農業の活躍と水道配水量
3月号	日本下水道のゆくえ	2016年1月号	世界工学会議を京都で開催	11月号	国民生活に直結する改正水道法のゆくえ
4月号	水なくしてシェールガス革命なし	2月号	すべて水の姿となって現れる地球温暖化	12月号	大都市から水がなくなる日
5月号	水危機に直面するアジア諸国	3月号	米ミシガン州プリント市の水道水鉛汚染	2019年1月号	水道運営を民営化しやすくする水道法改正案が成立
6月号	原子炉の基本は水だ（その1）	4月号	注目される「食と下水道」の連携	2月号	米フロリダ州、過去10年で最悪の赤潮被害
7月号	原子炉の基本は水だ（その2）	5月号	違法薬物と下水道	3月号	人気第1位！見学者160万人を引きつける宮ヶ瀬ダム
8月号	世界最大の水道に関する国際会議	6月号	台湾“水ビジネス”の現状	4月号	数字で見る海外水道事業の再公営化の実態
9月号	中国の水環境問題	7月号	ベルー、水銀汚染で国家緊急事態宣言！	5月号	世界の4分の1の病院に安全な水がない！
10月号	中国の水環境問題（PART2）	8月号	米国水道協会2016年次総会・展示会、シカゴで開催	6月号	天皇陛下下、ライフワークの水問題を世界に発信
11月号	東電福島第1原発の汚染水対策	9月号	「シンガポール国際水週間2016」ルポ	7月号	水道施設の情報セキュリティ対策
12月号	米国、カナダで深刻化する水環境問題	10月号	水力発電が日本を救う！	8月号	インドを襲う過去最悪の水不足
2014年1月号	アクアテック・アムステルダム視察記	11月号	「ストックホルム世界水週間」開催	9月号	海外での水ビジネス展開に発想の転換を
2月号	アジアにおける水リスク問題と企業	12月号	IWA世界会議、「水未来の形成」を議論	10月号	TICADで語られなかった水問題
3月号	地球温暖化と水資源の関係	2017年1月号	イランのエネルギー相に単独インタビュー！	11月号	首都圏を襲った台風15号と断水被害
4月号	ブラジルを脅かす水資源の枯渇	2月号	トランプ新政権が誕生	12月号	水インフラに恒久的な強靱化対策を
5月号	アルゼンチンの水事情	3月号	中国の水環境政策と市場動向	2020年1月号	1cmでも10cmでも河川の水位を下げよ
6月号	南米ウルグアイの水事情	4月号	米カリフォルニア州の水災害	2月号	世界の水資源と地球温暖化の影響
7月号	「シンガポール国際水週間・水エキスポ2014」開催	5月号	石油王国サウジの水環境と水ビジネス	3月号	ダボス会議のメインテーマは「気候変動」
8月号	南米ペルーの“水事情”	6月号	南米ペルーを襲った大洪水	4月号	最終回に寄せて…連載8年間の軌跡
9月号	南米コロンビアの“水事情”	7月号	キング・タイドが世界を襲う		
10月号	米カリフォルニア州、500年に一度の大干ばつ	8月号	ブラジルの水資源枯渇と上下水道インフラ		
11月号	国際水協会（IWA）リスボン世界会議で感じたこと	9月号	「国連水と災害に関する特別会合」を開催		
12月号	イラン・イスラム共和国の“水資源”事情	10月号	1都5県の水需要を支える浦山ダム、利根大堰		
2015年1月号	南米ベネズエラの“水事情”	11月号	ナイル川“水戦争”の虚実		

本企業が各国で水ビジネスに参入するにあたってのポイントや留意点も指摘し、多少でも日本企業の成長につながればという視点でも原稿を書いてきた。

このほか、昨年は水道法が改正され、水道事業の運営を民間事業者にゆだねるコンセッション方式が導入された。これが、水道事業そのものの民営化や外資売却などと間違った形で受け取られたため、本連載で水道法改正の真の意味と狙いを

分かりやすく解説したこともあった。

このように本連載では、水資源問題、水ビジネス、水道事業などに真摯に向き合ってきた。

おわりに

地球人口が77億人を超え、途上国の急激な経済発展や都市人口の急増、生活文化の向上に伴って、限りある水資源が不足するのではないかと危惧されている。

さらには地球温暖化による巨大な水災害（干ばつ、洪水、津波、海面上昇など）が解決すべき課題として、人類の前に大きな山のように立ちはだかっている。これらの課題を解決するためのアイデアやヒントを生み出す方策の1つとして、本連載の全号のタイトルを表にまとめたので、今後の施策に活用していただければ幸いです。

最後に、長年の拝読に深く感謝申し上げます。本連載を終了する。E